第2回 府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

1. 日 時

平成27年10月1日(木) 13:30~15:25

2. 場 所

安芸府中生涯学習センター くすのきプラザ 1階 ギャラリー

3. 出席委員

- 【産】 葦丸 勝子 委員 府中町商工会 副会長
(有限会社柳ヶ丘住宅 代表取締役)
- 【官】 木村 洋 委員 広島県地域政策局地域力創造課長
- 【学】 上之園 公子 委員 比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科 教授
- 【言】 益村 泉月珠 委員 広島テレビ放送株式会社編成局コンテンツビジネス部
クロスメディアプロデューサー
- 【住】 新宅 祐也 委員 府中児童センターバンビーズ センター長
- 【住】 田中 宏光 委員 府中町まちづくり推進懇話会委員
(元緑ヶ丘中学校 PTA 会長、元青少年問題協議会委員)
- 【住】 松本 真奈美 委員 府中町 PTA 連絡協議会 会長

※「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」(平成27年6月30日閣議決定)の「産官学金労言」の各分野の該当順。
冒頭括弧書きは該当分野。住民代表は五十音順。

4. 欠席委員

- 【金】 岡嶋 学 委員 株式会社広島銀行安芸府中支店長
- 【産労】 堂河内 克也 委員 ゆうゆうタウン商店街商店者代表
(セブンイレブン安芸府中本町5丁目店オーナー)

5. 町出席者

和多利町長、佐藤副町長、高杉教育長、地下地方創生担当部長
(事務局) 高石企画財政部長、高木課長補佐、松岡主査、奥田主任技師、田村主任主事

6. 傍聴人

19人(うち委員随員1人)

7. 次 第

- (1) 開会
- (2) 人口ビジョン、総合戦略の原案について
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

8. 町長 開会のあいさつ

本日は、何かとお忙しい中、第2回府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

開催に当たりまして、主催者を代表し、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、この会議は、国全体で進めている地方創生を府中町においても実現し、人口減少、また人口移動の激しい社会情勢の中でも、今後とも活力あるまちづくりを進めていくため、地方版の「総合戦略」策定に当たり、様々な立場でご活躍の委員の皆さまのご意見を、施策立案の参考とさせて頂くため、開催をさせていただいているものでございます。

前回、7月22日に開催いたしました第1回会議におきましては、府中町の今後のまちづくりの方向性として、事務局より府中町の現状データ等を基に「子育て世代が居住を選択するまち」を目指し、今後とも人口5万人を維持していくという試案をお示しし、委員の皆様から今後の府中町のまちづくりに必要な施策立案に当たり、貴重なご意見をいただいたところでございます。

本日は、後ほど担当部長の方が詳しくご説明いたしますが、前回いただいたご意見や6月に実施致しました町内及び町外居住者向けのアンケート調査結果などを踏まえ、前回ご提示したまちづくりの方向性の下、検討を進めてまいりました人口ビジョン案及び暫定版とはなりますが総合戦略案をお示しし、本日の意見交換を通じ、より実効性ある計画として練り上げて参りたいと考えております。

まちの特性を踏まえた、府中町らしさが次世代へもつなげる元気なまちづくりを実現していくため、前回に引き続きまして、ぜひとも活発な意見交換の場となりますようご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

9. 議 事

人口ビジョン、総合戦略の原案について

(地方創生担当部長から、アンケート調査結果について【資料1】、人口ビジョンの原案について【資料2】、総合戦略の原案について【資料3】の説明が行われた。)

総合戦略を10月末までに策定することが、国からの交付金の配分を受けるための条件とされていることから、その配分を目指して、暫定版として今回提示させていただいている。最終版は、もう少し追加する部分も出てくると考えており、本日いただいた意見を反映していきたいと考えている。

【意見交換 内容】

●委員1

前回、データからどんなものが読み取られるのかしっかり見ていくことが、良い戦略につながるということを申し上げたが、今回の資料を見ると、きちんと分析されており、素晴らしいものとなっていると思う。

資料2の3ページの人口推移のグラフにおいて、1995年を境に増加傾向が小さくなっているが、これは住宅の供給戸数にかなり影響を受けていることによるものか。人口に関しては、府中町は住宅の供給に大きな関係性があると思われる。

人口ビジョンの中で素晴らしいと思ったのは、11 ページの産業と人口の関係について、「地域の人口は産業が生み出す雇用によって構成されるという考え方がありますが、府中町ではそうした関係性が他地域と比較して小さいと言えます。」とあり、これが府中町という産業の非常に大きなポイントになると思っている。また、「府中町はしごとがないから人口が増えなくなったとは言えない」とあり、その通りだと思うが、これは人口の推移において 1995 年から増加傾向が小さくなっているのは、恐らくそのような住宅の供給もかなり影響しているため、住宅について今後どうしていくかが、戦略を考える一つの柱になるのではと思う。一方で、府中町内に居住する就業者の約 3 分の 2 は、町外に出て働いており、逆に 3 分の 2 が町内に入って働いている。このような現象は、単純に住宅がないからだけではないと思う。それは、居住している方々が実感を持っておられることで、そのようなことを何かもう少し掘り下げてみると、戦略を導くには良いのではないか。

また、資料 1 のアンケートにおいて、府中町の現状を聞かれたときに、通勤・通学に便利や公共交通の利用が便利という回答が多いにもかかわらず、住み続けるために重要な施策として、交通利便性の向上を回答されている方がかなり多いのは、どう捉えればよいのか。府中町の公共交通という視点から考えると、県内の他市町と比べて非常に質が高く、よく出来上がっている公共システムだと思うが、それでもなお交通利便性の向上を望まれている方が多いというのは、どういった理由からか、この部分ももう少し分析されると良いのではないか。町外居住者のアンケートに住宅に関する回答も多く、人口が増える要因として住宅戸数に大きく左右される部分があるとすれば、ここも無視できないと思う。確かに、住宅の価格が高いということは、住宅地としての評価が高いということで、これはある意味良いことだが、現状の人口推移としては、県内の自治体の中でも府中町では、それ程大きな問題はないかもしれないが、戦略を立てることを考えた場合には、将来の脅威がどういったものがあるのかということも、府中町なら考えられるのではないかと思う。それが例えば住宅の問題で言うと、これから人口がどんどん減ってきて、広島市中心部でも空き家が相当出てくると思われる。全県的に 15% くらい空き家があり、これから便利の良い広島市近辺の住宅地に空き家が増えてきたり、住宅用地が出てくれば、府中町にとってどのような影響を受けるのか、すごく大きな脅威になるのではないか。もう一つの脅威として、産業についてどう捉えるかで、資料 2 の 10 ページの産業と人口の関係において、二次産業に非常に大きなウェイトがあり、マツダ（株）を中心とした府中町の企業が、この先どうなるのかということも視野に入れて考えていくべきだと思う。最近の流れでは、製造業の回帰ということが言われている。今回、戦略の柱の中に仕事という部分が見て取れず、まち・ひと・しごと創生の基本的な考え方というのは、まずは仕事があって、そこで優良な雇用が発生すると、そこに人が集まり、人が集まることによって、例えばサービス業などがもっと増え、ここで人が集まり仕事が増えて人が集まるという大きな循環ができてくる、こういう循環を支えるまちを創っていくのが、まち・ひと・しごと創生の基本的なところである。他の市町で話があったのは、自分たちのまちにも大きな工場や企業がたくさんあるが、知らない人が多いということがあり、そういうところを知ることからでも、産業の大きな恩恵を受けていることの理解につながる。それは、その人たちを活かす大きな企業をみんなで支えるという一歩につながるのではないかという事例があった。そのようなことも含めて、少し産業というところに目を向けられても良いのではと思う。

最後に資料2の20ページで、スローライフの実現を求めて東京以外の地域へ移住するということが、アンケートの結果から出ており、これは事実だろうとは思いますが、一方でどこに住みたいかと聞くと中山間地と答える人はあまりおらず、地方の中核都市や都市近郊に住みたいという方が結構おられる。成功事例として、岡山県は人口が増えており、住む場所としてのイメージが、晴れの地域で、災害が少なく、原発がないとても良い場所だということで、震災以降にそういった評判が拡散していった経緯があり、それを受け皿としてしっかり受け止めることができた。また、初めは民間から始めたが、その流れをきちんと捉えた岡山市が周りの人たちと一緒に取り組みを始められた。このように、岡山の都市圏は周りの人を巻き込んで取り組んでおられる。府中町にどれだけのネームバリューがあるのか分からないが、広島という切り口からいうと、ネームバリューはあると思う。府中町は居住地として都市の近郊であるとか、子育てしやすいまちということを前面に打ち出して、広島都市圏の中に位置することをアピールすれば、決して効果がないことはないのではないか。

●事務局

人口推移が、1995年から横ばいとなっているのは、住宅供給とも関係があるかもしれないが、さらに景気全体が当時どうだったかを考えると、1995年頃にマツダ（株）がフォードの傘下に入り、その後のリーマンショックにより景気が悪くなり、最近ようやく良くなってきた。そのような地域内の産業全体の流れが色濃く反映されているのではないかと思う。住宅供給の動向というの、経済の方に引っ張られることもある。人口増と住宅供給は、どちらが先とも言い難いが、一方で、最近人口が増えているのは、マンションが町内で増えていることが影響しているものと思われることもある。

また、交通が便利のため、府中町に引っ越してきたと言いながら、一方でこれから住み続けるために重要だという施策も交通利便性の向上と言っている。これは細かい分析をしているわけではないが、府中町の中でもいろいろな地域があるため、平地に住んでいる人からみれば、交通が便利のためここに住むのを選び、山手の上の方の人はもっと便利になってくれないと住み続けられないということで、同じ人ではなく別の人が答えているという可能性もあり、府中町の場合は、そちらの可能性が高いのではと思う。しかし、木村委員の言われるように、住宅の問題で空き家についての脅威の話があり、確かにそういうことも考えていかなければならないと思う。府中町の空き家率は、総務省の住宅土地統計調査では、10.8で広島県内の市町の中では一番低い数字である。全国平均の13.8よりも低いため、現在や近い将来に問題になるというのではなく、もう少し先のことを考えると、脅威として考えるべき問題だと思う。

それから、製造業において国内回帰ということも起こってきており、かなり高度な製造物は、府中町の中にまだ製造業としてあるが、中国などに流れていたものが、帰ってきた場合に、その人たちが府中町を着地点として選ぶということは、あまりないのではないか。現在、府中町にある企業でメキシコなどの海外に事業所を出しているが、帰ってくる企業がどんどん増えると、府中町はメキシカンなまちと言われるかもしれない。それが府中町の特徴になれば、おもしろいと思う。

また、まち・ひと・しごと創生のため、仕事のところに触れた方が良いのではという話があったが、まずは、暫定版を作るということを念頭に置いているため、今回原案として示し

たものだが、仕事についても府中町にとって製造業は強みで、さらに伸ばしていくことは、地域の特徴でもあり、重要なことだと思う。今後、仕事についても考えていければと思う。

●委員 2

資料 3 で推進される施策の 11 項目について、いくつかコメントさせていただきたいと思う。まず、様々な点からのアプローチをされているため、それだけの充実がされれば、本当に素晴らしいと思う中で、さらにこうなればと思う点が 3 つある。1 点目は孫育てで、これは都心よりも地方の方が出生率が高いという話があるが、その理由の一つとして、祖父母の存在が大きいというのはよく言われていることで、まさに孫育てというのは、非常に大事なキーワードになると思う。先ほど産業のところでも話があったが、働く人を増やさなければならないという観点で、よく高齢者・女性・外国の方というキーワードが出てくるが、ここで女性に注目し、孫育てと女性というところで組み合わせると、私たちは子育て応援団の中で輝くワーママ応援プロジェクトという取り組みを行っているが、そこでアンケートを実施した結果、女性が働くうえで不安なことは何かという質問をすると、子どもの熱、子どもの健康のことについて多く回答されている。保育園に預けている時に、熱が出れば迎えに行かなければならない。この状況になった時に、働くお母さんは、二重三重の保険を掛ける。自分が迎えに行けない場合に、祖父母が行ってくれば良いが、なかなか祖父母に頼れる人ばかりではないため、病児保育に行ったり、ベビーシッターに頼んだりということもある。そういう点から言えば、孫育てというところでは、支援策を講じるという表現となっているが、是非、働くママの支援で二重三重のバックアップ体制が取れるような施策になっていけば、産業の方にも繋がっていくのではないかと考えている。

2 点目は、3 人乗りの自転車で、是非ヘルメットの貸し出しもお願いしたい。

3 点目は、感染症についてで、成人の感染はあまりない子どもの感染症ということで取り上げられているが、胎児、要は妊婦の方が感染すると障害を負ってしまう可能性のある感染症がいくつかある。例えば、風疹により先天性風疹症候群になってしまったり、水疱瘡により先天性水疱瘡症候群になってしまう。子どもを増やしていくのであれば、府中町では子どもを産まれる前から大事にするというような観点を持つと、非常にやさしい施策になるのではないかと思う。感染症というのは、母親が非常に気になる場所であるため、子どものワクチンもあるが、例えば妊娠を希望している方の抗体検査もあるし、ワクチンの助成という方法もある。

●事務局

1 点目の病児保育などの働く母親の支援については、細かいところもこれから考えていけたらと思う。

2 点目の 3 人乗りの自転車については、保育所ではヘルメットの貸し出しまで行っていたかどうかは分からないが、安全講習会を実施し、ヘルメットの着用についても必要性を教えられていたと思う。

3 点目の妊婦の感染症については、子育て世代ということで、子どもだけではなく、妊婦の時からも含めて応援していくということが、町としての考え方でもあるため、方向性として考えていきたいと思う。

●委員 3

アンケートの結果で、それぞれのニーズに応えるということもあるが、こういうことも行政はやってくれるということを作り出していく観点もいるのではないか。例えば、ボランティアが放課後、子どもたちに年に何回か遊びを教えているが、放課後の子どもの居場所を作ってほしいということが、保護者の方たちのニーズで、年に何回か教えるだけではなく、継続して放課後の学びにつなげるなど、学習の支援まで発展していければいいと思う。もちろん出生率も上げていかなければならないが、小学校に入る前の子どもを持つ親が、どこに住む場所を決めるかという時、例えば小学校のクラスの中に配慮を要する子どもがいる場合に、特別支援学級ではなく、府中町ではきめ細かく特別教育をやられており、そこを目指して6年間、9年間の教育を受けるため、府中町を選ばれるという方もいる。そういった中で、年に何回かというのではなく、年間を通して継続して日常の中で子どもたちをどうサポートできるか、安心して放課後の居場所や学習支援、食事もできるようなサポート体制を一步進めていくことができればと思う。そこで、教員を目指している学生のボランティアだけではなく、いろいろな方に協力していただきながら、そういう日常が保障されれば安心して子育てができると思う。府中町は広島市に近く家賃が高いが、逆に言えば、山間部や島しょ部のようにボランティアの要請があっても、一回行くだけでとても交通費や時間がかかるといったことはなく、活動を継続しやすいところである。就学時の家族の増加を進めることにより、人口増が図れればと思う。

●事務局

教育関係者の方々の協力をいただきながら、より良い教育を目指していきたいと思う。

●委員 4

今回、このような素晴らしい資料を作っていただき、府中町民としてすごくありがたいと思う。先日、家族で尾道に行った際に、レンタサイクルを利用したが、とても充実しており、駅から降りてすぐ近くで借りられ、車では見ることができない細かい街並みや店を駐車場も気にすることなく立ち寄れるのが、すごく便利だと思った。府中町でもレンタサイクルができれば、素晴らしいと思う。

●委員 5

大学生が子どもに遊びを教えるという施策のところ、教員を目指している大学生はたくさんいるが、そこに例えば介護や障害といった分野を目指している大学生も含め、興味のある中高生たちも、もっと身近に参加できるような拠点があればいいと思う。そのような拠点があれば、情報交換や、様々な視点から府中町の課題といったところまでも一緒に考え、もっとまちを知ることができるシステムを作れるのではと思う。また、母親が主体的に活動できる場、サークルや市民団体などの活動できる拠点も含めて、施策の中に入れていただければと思う。

●委員 6

つばきバスのルートについて、さらに利便性を良くするというところで、自分が住んでいて思うのは、府中町は広島市に向けての交通の利便性は良いが、町内の循環においては、つばきバスや広電バスがあり、多少便利は良いが、みくまりの団地の上の方の人が利便性が悪いと感

じられていると思う。また、出生率を上げる世代を増やすため、その人たちを手厚く支援するというのもよく分かるが、孫を育てている世代もこれから増えてくるため、そういう 60 代以上の世代もある程度支援すれば、祖父母に孫を預けるため、町外に住んでいた人が、府中町に戻ってこられるということにもつながるのではないか。

東日本大震災や今年の広島市土砂災害などの発生により、アンケートの中でも防災減災について気にされている方がいるため、防災減災に関するアピールをすれば、府中町に安心して移って来られるのではと感じた。

●委員 7

府中町には歴史や観光の場所などアピールするものがあるようでない。地図を調べてみると、西国街道という海田と府中町を結ぶ道があるなど、こういったものを県外から来られた方に PR ができればと思う。また、水分峡はとてもきれいな場所だが、まだあまり安全ではない場所だと思う。小さな子どもを連れた家族が安全に遊べるように開発をした方が良いのでは。気軽に安全に遊べる場所があれば、府中町に引っ越して来られるアピールにもつながるのではないかと思う。

●事務局

今回提示したものは暫定版であるため、本日、皆さんからいただいた多くの意見については、完成版の中で検討させていただきたいと考えている。

【町長 閉会のあいさつ 内容】

閉会に当たりまして、一言お礼を申させていただきますと思います。長時間にわたり、たくさんのご意見をいただきありがとうございます。前回いただいたご意見を参考にしながら、今回、整理したものをお示ししたということでございまして、また今日、新たなご意見もあつたようでございますが、中でも子育てをまちづくりの中でいろいろと策を進めていきたいということですが、人口減の中でこれからどうするか考えていかなければならないということでございます。それも含めて先ほど道路の問題もあつたように、幹線道路はかなりできてきましたが、まだまだこれで十分ではなく、将来にわたってそのような大きな道路もより便利にしていく、また住宅の問題で、土地や町営住宅がないというのがございます。府中町は土地が高いと評価されており、他なら 60 坪のところを 45 坪で我慢しても、利便性が良いという中で、十分メリットがあるのではないかと考えております。

それともう一つは、府中町は歴史が古く、これを観光等に活かしてもっと魅力を出すということを、第 4 次総合計画や地方創生総合戦略の中で何かできればと考えているところでございます。人口減少社会の中でも、人口が減らない、常に人が来てくれる、住んでくれるそういうまちを目指してこれからも努力をしていかなければいけないと考えております。本日は、いろいろな良いご意見をいただき、誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。